

個性派企業の追求～社会貢献企業実現のために

昭和電工株式会社

2009年第1四半期 決算説明資料

2009年4月30日発表

取締役 常務執行役員 CFO
野村 一郎



本資料は発表日現在において入手可能な情報及び将来の業績に影響を与える不確実な要因に係る発表日現在における仮定を前提としています。実際の業績は、今後、市況や為替レートの変動などを含む様々な要因によって大きく異なる結果となる可能性があります。

連結対象会社

- 連結子会社 40社
 - 増減なし

- 持分法適用会社 19社
 - 持分法適用除外 1社
 - 三重化成(株)(売却、石油化学セグメント)

注.増減は前期末対比

主要諸元

(期中平均)

	2008年1-3月	2009年1-3月	増減
■ 為替レート* (円/US\$)	105.3	93.6	11.7円高
■ 国産ナフサ (円/KL)	66,700	26,700	△40,000
■ アルミ LME (US\$/T)	2,785	1,397	△1,388

※08年12月31日期末レート91.0円 09年3月31日期末レート98.2円
 ⇒ 7.2円円安

連結業績の概要

2008年1-3月 対 2009年1-3月

(億円)

	2008/1-3	2009/1-3	増減	伸率
売上高	2,469	1,210	△1,258	△51.0%
営業利益	97	△157	△254	—
営業外損益	△49	△80	△31	
うち金融収支	△17	△16	+1	
うち持分法損益	4	△14	△18	
うち為替差損益	△30	+7	+38	
うち操業短縮損失	—	△35	△35	
経常利益	48	△236	△284	—
特別利益	28	4	△25	
特別損失	△12	△76	△64	
税金等調整前四半期純利益	64	△309	△373	—
法人税等	△29	+88	+117	
少数株主損益	△3	+0	+3	
四半期純利益	32	△221	△253	—

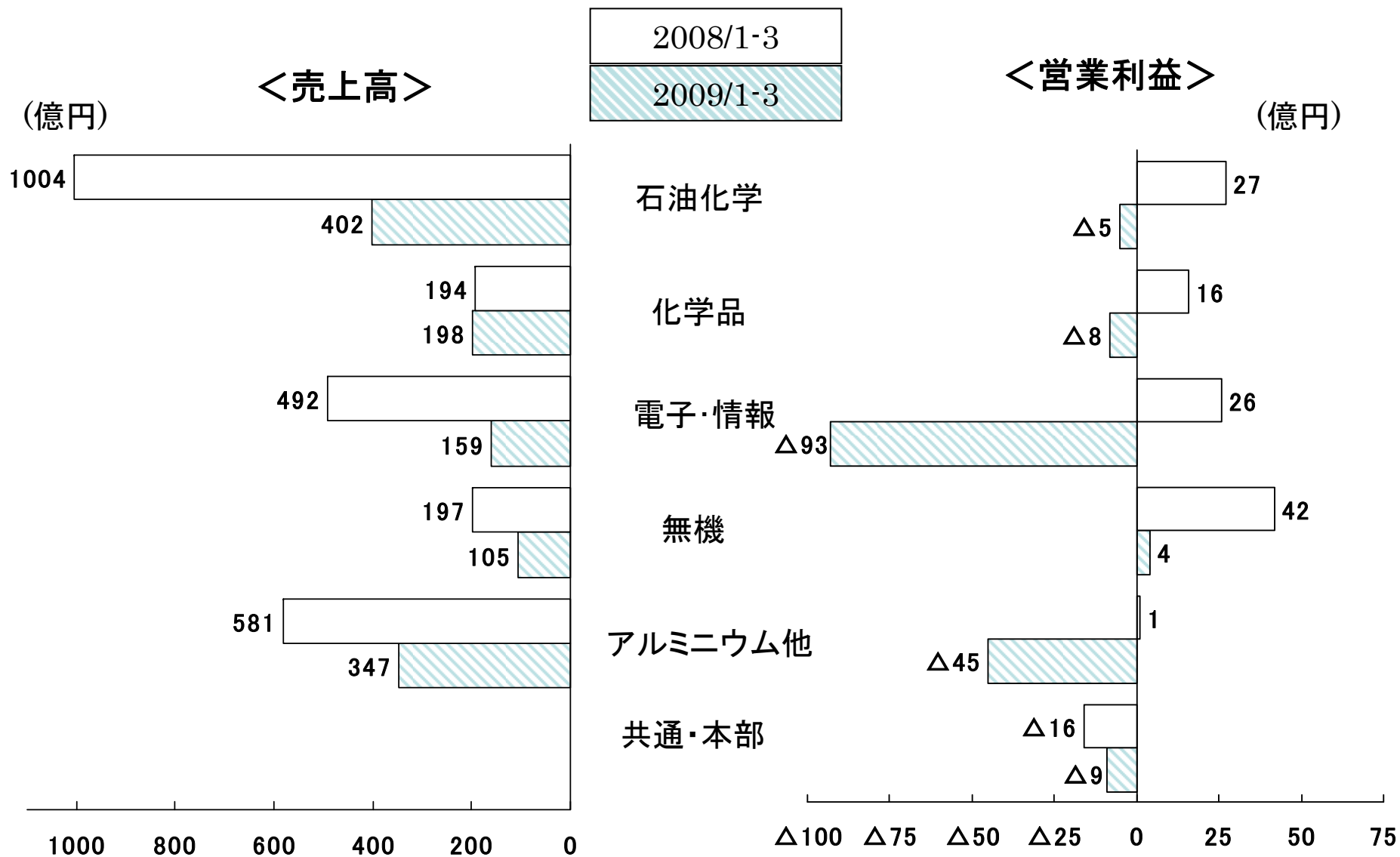
特別損益の内訳

(億円)

	2008/1-3	2009/1-3	増減
■特別利益	28	4	△25
●固定資産売却益	7	0	△7
●投資有価証券売却益	5	—	△5
●その他	16	3	△12
■特別損失	△12	△76	△64
●期首たな卸資産評価損	—	△55	△55
●固定資産除却・売却損	△3	△9	△6
●投資有価証券売却・評価損	△5	△5	+0
●その他	△5	△7	△3
■特別損益	16	△72	△88

・当第1四半期連結会計期間より「棚卸資産の評価に関する会計基準」が適用されたことにより、たな卸資産評価損を特別損失に55億円計上。

セグメント別業績の概要



連結売上高差異内訳

(億円)

	2008 1-3	2009 1-3	増減	項目
石油化学	1,004	402	△603	オレフィン:減収(エチレンプラント減産、価格低下) 有機:減収(減産、価格低下、 酢酸のPTA向け外販撤退)
化学品	194	198	+4	AN、クロロプレングム:減収(減産) 昭和炭酸(株):前年6月新規連結
電子・情報	492	159	△333	HD:減収(減産、HDD業界在庫調整) 化合物半導体:減収(電子部品業界生産調整) レアアース:減収(自動車業界生産調整) 特殊ガス:減収(半導体業界生産調整)
無機	197	105	△93	セラミックス:減収(減産) 電極:減収(電炉鋼業界在庫調整)
アルミニウム 他	581	347	△234	アルミ地金:減収(外販圧縮) 圧延品:減収(コンデンサー用高純度箔減産) 押出・機能材:減収(減産) 熱交換器、ショウテック:減収(自動車業界 生産調整) アルミ缶:増収(数量増)
合計	2,469	1,210	△1,258	

連結営業利益差異内訳

(億円)

	2008 1-3	2009 1-3	増減	項目
石油化学	27	△5	△33	オレフィン:減益(数量減) 有機:減益(数量減)
化学品	16	△8	△24	AN、クロロプレンゴム:減益(数量減)、 アミノ酸:増益
電子・情報	26	△93	△120	HD:減益(数量減) 化合物半導体:減益(数量減) レアアース:減益(数量減) 特殊ガス:減益(数量減)
無機	42	4	△38	セラミックス:減益(数量減) 電極:減益(数量減)
アルミニウム 他	1	△45	△46	圧延品:減益(コンデンサー用高純度箔数量減) 押出・機能材:減益(一般押出品数量減) 熱交換器:単独・米国減益 ショウティック:減益(数量減) アルミ缶:減益(コストアップ) 卸電力事業:増益(燃料価格低下)
共通・本部	△16	△9	+7	コスト削減等
合計	97	△157	△254	

連結貸借対照表

(億円)

資産	2008年 12月末	2009年 3月末	増減	負債・純資産	2008年 12月末	2009年 3月末	増減
現預金	410	450	40	営業債務	1,404	844	△560
営業債権	1,172	901	△271	有利子負債	3,929	4,381	452
たな卸資産	1,177	1,112	△66	再評価に係る繰延税金負債	460	460	—
繰延税金資産	59	46	△13	退職給付引当金	287	280	△7
その他	399	390	△9	その他	886	1,050	165
<u>流動資産計</u>	<u>3,217</u>	<u>2,899</u>	<u>△318</u>	<u>負債計</u>	<u>6,966</u>	<u>7,015</u>	<u>49</u>
建物・構築物	950	950	0	資本金	1,219	1,219	—
機械装置・運搬具	1,525	1,545	20	資本剰余金	379	379	—
土地	2,560	2,561	0	利益剰余金	731	451	△281
他有形固定資産	281	263	△18	自己株式	△2	△2	0
<u>有形固定資産計</u>	<u>5,316</u>	<u>5,319</u>	<u>2</u>	<u>株主資本計</u>	<u>2,328</u>	<u>2,048</u>	<u>△281</u>
無形固定資産	130	140	10	その他有価証券評価差額金	50	41	△9
投資その他の資産	957	1,056	99	繰延ヘッジ損益・為替換算調整額	△191	△147	43
(内、投資有価証券)	656	643	△13	土地再評価差額金	219	219	—
(内、繰延税金資産)	176	276	100	評価・換算差額等計	78	113	35
<u>固定資産計</u>	<u>6,404</u>	<u>6,515</u>	<u>111</u>	少数株主持分	248	238	△10
				<u>純資産計</u>	<u>2,655</u>	<u>2,399</u>	<u>△256</u>
資産合計	9,620	9,413	△207	負債・純資産合計	9,620	9,413	△207

総資産・有利子負債・D/Eレシオ・自己資本比率

	3月末	前期末比
■ 総資産	9,413億円	△207億円
■ 有利子負債	4,381億円	+452億円
■ D/Eレシオ	2.03倍	+0.4p
■ 自己資本比率	22.9%	△2.1p

2009年第2四半期累計期間連結業績予想

(億円)

	年初予想 2月9日公表	今回修正予想 4月30日公表	増減
売上高	3,700	2,800	△900
営業利益	△40	△275	△235
経常利益	△80	△395	△315
四半期純利益	△60	△380	△320

セグメント別 第2四半期累計売上高予想(連結)

(億円)

	年初予想 2月9日公表	今回修正予想 4月30日公表	増減	主な内訳
石油化学	1,100	930	△170	主に1Qの大幅生産調整の影響
化学品	500	470	△30	AN、クロロプレングム等数量未達
電子・情報	700	430	△270	主に1QのHD数量未達。特殊ガス、レアアース、化合物半導体数量未達。
無機	400	230	△170	電炉鋼業界の生産調整による数量未達。
アルミニウム他	1,000	740	△260	コンデンサー、自動車業界の生産調整による出荷減
合計	3,700	2,800	△900	

セグメント別 第2四半期累計営業利益予想(連結)

(億円)

	年初予想 2月9日公表	今回修正予想 4月30日公表	増減
石油化学	△30	△5	25
化学品	5	△15	△20
電子・情報	△50	△165	△115
無機	75	10	△65
アルミニウム他	△15	△75	△60
共通・本部	△25	△25	0
合計	△40	△275	△235

■石油化学セグメント

●高付加価値ポリプロピレンの能力増強を決定

- ◆持分法適用会社であるサンアロマー(株)は、大分工場の競争力強化を目的に、同工場の第3系列をゴム含有量の高い高付加価値ポリプロピレンを製造可能とするべく改造工事を実施。併せて、同工場の第1系列の設備能力を約6万トン増強し、省エネと設備管理の効率化によるコストダウンを実現する。竣工は平成22年上期を予定しており、総投資額は40～50億円を見込む。本製品は、ゴム含有量が高く、高剛性・高衝撃性能により成型品での軽量化・低コスト化を図れるといった特長を有する。

■電子・情報セグメント

●ハードディスクの記憶媒体事業の譲渡・譲受に関し基本合意

- ◆当社と富士通(株)は、本年上期中を目処に、富士通(株)の子会社が営むハードディスクメディア事業を譲受けることで基本合意した。今後、当社の独自技術と富士通(株)の子会社の保有する技術との融合により開発力と事業競争力を強化する。

セグメント別トピックス

■電子・情報セグメント

- 世界最大記録容量500ギガバイトの3.5インチハードディスクの量産を開始
 - ◆本年1月より、3.5インチサイズとしては世界最大(注)となる1枚当りの記録容量が500ギガバイトのハードディスクの量産を開始。大記録容量のハードディスクに対する需要は、デジタルハイビジョン放送をハイビジョンのまま録画できるHDDレコーダー向けや、動画の保存・編集を行うパソコン向けに拡大。
(注)世界最大:本年2月現在、当社推定

- 世界最高出力 植物育成用4元系赤色LED素子を開発
 - ◆植物育成に最適な波長光を発する4元系赤色LED素子の開発に成功し、サンプル販売を本年4月より開始。本製品は植物育成に最適な波長660nmの光を発する赤色LED素子として世界最高(注)の発光出力を達成。今後、レタスなどの野菜を人工光で栽培する植物工場等への用途開発を推進。
(注)世界最高:本年4月現在、当社推定

■電子・情報セグメント

- カーボンナノチューブ新グレード「VGCF®-X」の量産を決定
 - ◆樹脂複合材分野向けに最適の製品設計を行ったカーボンナノチューブ「VGCF®-X」の量産設備を大分コンビナート内に建設することを決定し、平成22年上期より年間400トンの生産を開始する予定。本製品を樹脂に少量添加することにより、クリーンルーム内で使用される搬送器具に高い導電性を安定的に付与し静電気の発生を抑止することから、半導体やハードディスクの品質向上に貢献する。また、今回の量産の決定に際し、カーボンナノチューブの複合材分野において材料・用途などに関する多数の特許をもつ米国ハイペリオン社とクロスライセンス契約を締結。

- 電気自動車向けリチウムイオン電池用黒鉛負極材「SCMG®」の販売開始
 - ◆大型リチウムイオン電池向けの黒鉛負極材「SCMG®」の開発に成功し、国内外複数の電気自動車の大型リチウムイオン電池向けに販売開始。電気自動車は、大電力を小スペースで蓄える必要があり、この高い要求に応じるためにリチウムイオン電池の開発が進行中。「SCMG®」をリチウムイオン電池の負極に用いることで、大電流の使用と電池に長寿命化が可能。今後、本製品に対する需要の伸びが見込めるため約20億円の投資を行い、大町事業所の年間生産能力を現状の1,000トンから平成24年には3,000トンに引き上げる。

セグメント別トピックス

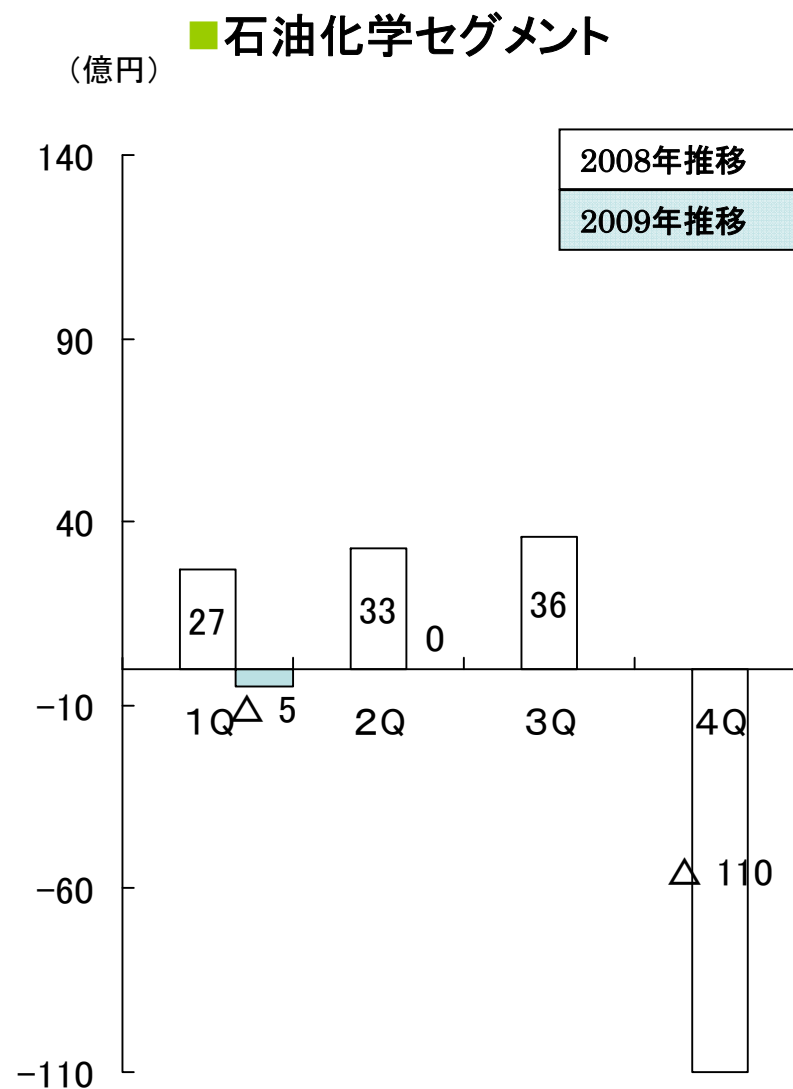
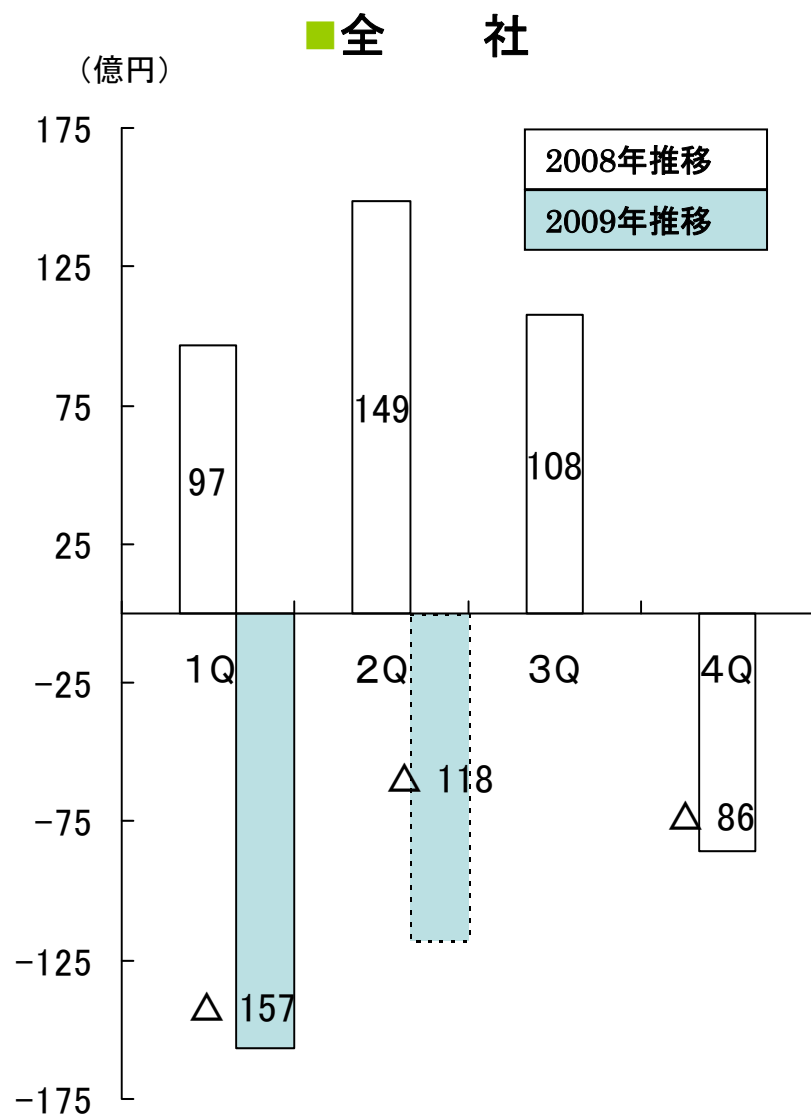
■電子・情報セグメント

- 半導体用次世代エッチングガスC4F6事業の拡大強化
 - ◆ 米国エア・プロダクツ・アンド・ケミカルズ社と共同で、環境負荷の極めて小さい半導体向けエッチング用高純度ガスC4F6の生産を川崎事業所において本年上期に開始いたします。C4F6は、既存のエッチング用ガスと比較して微細加工性や選択性に優れているため需要の拡大が見込まれる。

■無機セグメント

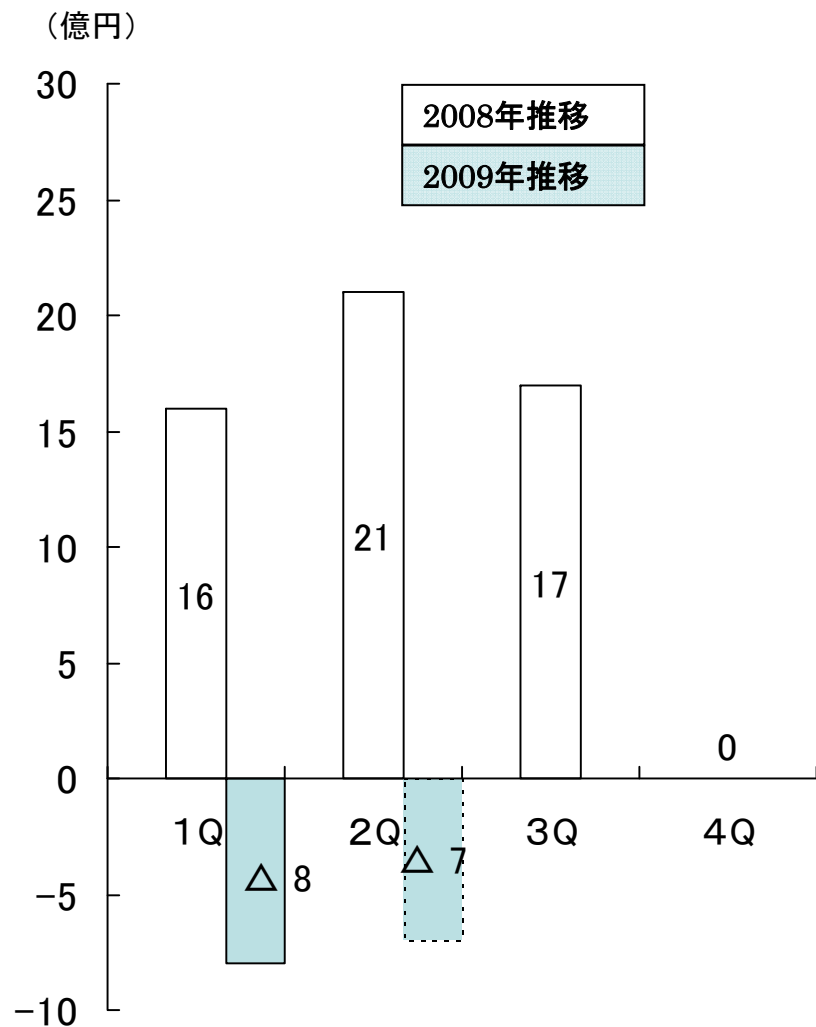
- NEDO技術開発機構プロジェクトによる光触媒の量産試作を開始
 - ◆ 連結子会社昭和タイタニウム株式会社は、独立行政法人 新エネルギー・産業技術総合開発機構(NEDO 技術開発機構)がこのたび新たに開発した可視光型光触媒について、パイロット生産設備を同社内(富山県)に設置し量産化を開始。本触媒は、これまで十分な効果が得られなかった室内においても空気浄化、防汚、抗菌、抗ウイルス等の機能を発揮。

(ご参考) 四半期別連結営業利益推移

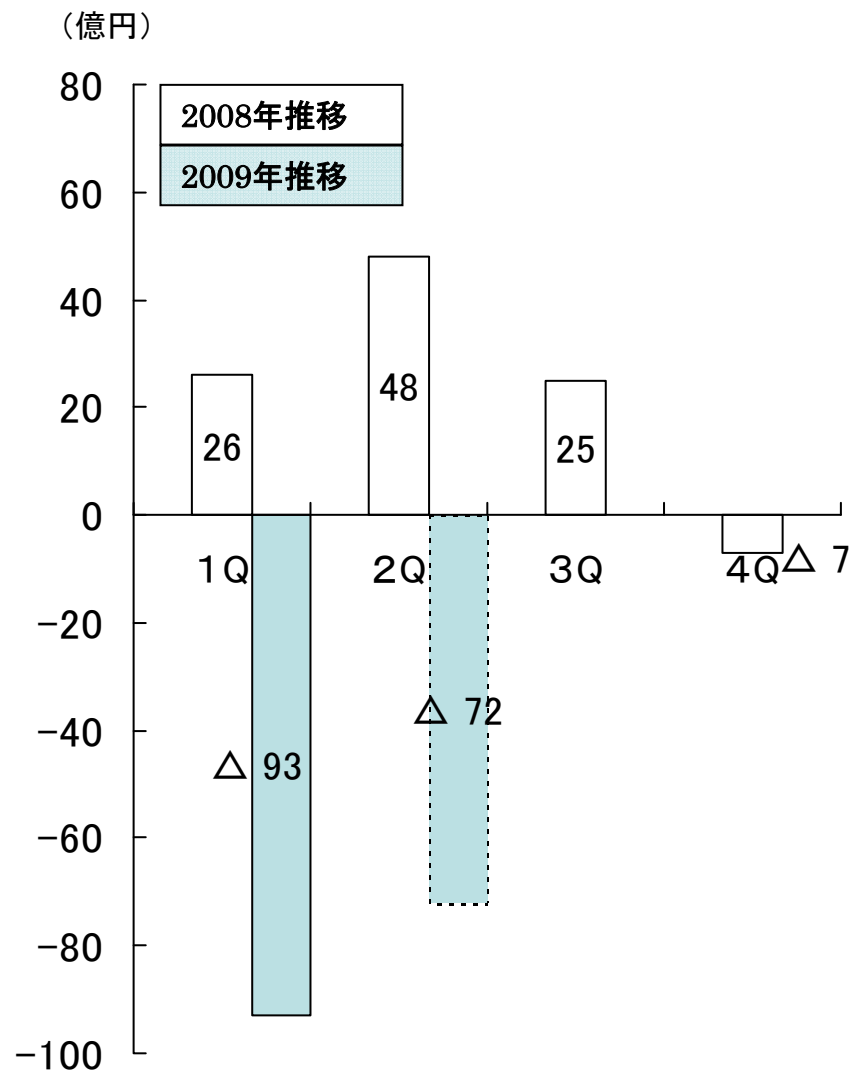


(ご参考)セグメント別営業利益推移

■化学品セグメント



■電子・情報セグメント



(ご参考)セグメント別営業利益推移

